

■前田夏蔭 国学者。長く水戸藩学監するうち、幕府に召され、蝦夷関係史料を集大成し、現行地名の漢字表記を選定した。
まえだなつかげ
松平定信引退1793＝ 前田孫七郎の次男として江戸に生まれる。

膝栗毛始・・・1802＝ 9歳：

父孫七郎は和漢の学を好み和歌・書に優れていた。清水浜臣に入門して、国学を修め、歌学にも優れて、浜臣の文集の校訂を任されるようになる。

ゴロブニ拿捕 1811＝18歳：

水野忠成老中1818＝25歳：

・・・ 1820＝27歳：

シボム来日・1823＝30歳：この年に至らずして門弟が満ちたともいう。
シボム鳴滝塾1824＝31歳：浜臣が死去。

・・・ 1826＝33歳：浜臣三回忌のとき建碑のことで華島蓮阿と争ったという。

シボム事件・1828＝35歳：
シボム追放・1829＝36歳：*この年水戸藩主となった徳川斉昭に仕え、

大塩平八郎乱1837＝44歳：
適塾ホブシ・ 1838＝45歳：
5人扶持を給されて、江戸駒込別邸内にある編輯所(水戸弘道館の支脈)の学事監督を託された。このとき編輯所を預かっていたのが西野宣明であった。また徳川慶喜に師と仰がれた。

この間、斉昭は「明倫歌集」の編集を始めていたが、
阿部正弘首座1845＝52歳：
・・・ 1847＝54歳：その蒐集を命じられていた小山田与清が死去したため、「明倫歌集」の編集に参加。

尊徳報徳論・1851＝58歳：完成に至った。

ペリー来航・1853＝60歳：
開国開港・・・1854＝61歳：*幕府に召され、勘定格として百俵を給された。このとき夏蔭は漢学者林大学頭の支配に置かれることを喜ばず、大いに本朝のために恥なることを献言したという。
安政大地震・1855＝62歳：*「蝦夷志料」編纂を目賀田守蔭らとともに命ぜられ、別に十人扶持と月々18両を給された。「蝦夷志料」は、それまでの蝦夷地関係史料の集大化を意図したもので、それは松前藩領を除く蝦夷全域を幕府直轄領としたためであった。夏蔭は主任として史料の蒐集を担当した。

松下村塾・・・1856＝63歳：
桜田門外変・1860＝67歳：編纂作業は一応完成。

禁門の変・・・1864＝71歳：没した。
「大和物語錦繡抄」「稻荷神社考」「宇那為波奈理弁」「万葉集私記」「蝦夷志料」「鶯園叢書」「歴代廟陵考補遺後集」など多数。